

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 78 号	2008年1月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	------------	--

1. 年頭のあいさつ（今井 和男 会長）

新年、あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族おそろいで、輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

昨年は、皆様方のご協力ご支援により、諸活動等が立派に実施出来ましたことを、心からお礼を申し上げます。

さて、今年の活動取り組みを振り返って見ますと、

- ・ 諸設備の補修と環境の整備
- ・ 学童を含めた、田植えから稲刈り・餅つきの一連の活動
- ・ ソバの植付け・収穫からソバ打ち
- ・ 竹炭・木炭の生産
- ・ 里山自然観察隊の活動
- ・ ビオトープシンポジュームの講演参加

等々、なかでも新たに取り組みました「合鴨農法」の維持管理につきましては、大変な苦労が多かったと思います。無農薬の餅米が収穫することが出来たことは、大変に好評を受けました。

一方、各種団体の見学観察等も毎年増加しました。

- ・ 鶴の島小学校学童の参加
- ・ 水と里山自然環境探訪ツアー
- ・ 全国フォーラム in 宇部との意見交換

特に意見交換は他県からの多数の来客であり、全国へ大きくアピール出来たと思います。

これらの受入れ対応も、円滑に出来たことは、会員のご協力の賜ものと敬意を表します。

来年は、過去の活動等を振り返しつつ、反省して「充実感にあふれた」里山ビオトープの創造に努めて参りますので、皆様方のさらなるご助力をお願いする次第です。

最後に「里山ビオトープ二俣瀬」の益々の発展と、会員のご健勝を祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。

2. 活動報告（事務局 記）

— 1月15日（火）水車水路修復用ほか散策橋の橋ゲタ用に間伐材を運搬しました、原田副会長、西原会員、吉富匡会員、藤村会員、と原田事務局の軽トラック3台にて運搬しました。
ほか草原の川側壁用竹材は車地地区門松残材（孟宗竹）を頂き搬入しました。猪破損の土手に加工し修復使用します。

— 1月15日（火）きらめき財団助成による間伐材購入運搬 原田賢、西原、藤村、吉富匡、原田マ各会員

— 1月18日（金）水路用タワー準備製作 原田賢、藤村、原田マ各会員
蕎麦田の荒起こし 原田宗会員 トラクター含む

— 1月19日（土）初集会に16名の参加を頂き、水車水路の改良修復いたしました。二俣瀬の旧跡「駒の頭」をまね噴水式と致しました。

原田副会長奥さんの作られた春の七草入りおかゆを戴き午後1時半に作業は終了しました。

あと竹などで修飾等は車地会員で行ないますので見においでください。

又本日は“やまぐち県民活動きらめき財団”から森永様が活動状況の視察に来られ、作業に張りのある一日でした。

- 1月22日（火）水車水路塩化ビニールパイプを孟宗竹での修飾、及び市道との注水口の泥持ち作業と田んぼの厩肥撒布 原田賢、田村、吉富匡、林弘、原田マ各会員

3. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

- 2月3日（日）13時 青年会議所環境学習事前調査 志賀会長他6名
- 4月20日（日）同上 青年会議所御一行100名 遊ロードからビオトープ見学案内

◎ 行事

- 2月3日（日）活動日 草原川の側淵猪被害の修復予定、湿地帯エコアップ
- 2月16日（土）活動日 池の土手猪被害の修復予定、湿地帯エコアップ

4. 来訪者の声 （東屋のノートより一部抜粋）

11月4日

周南市須々万で活動している市民ボランティアグループ「ふれあいの森なんでも工房」仲間9人で見学に伺いました。6万坪の森林公園に水辺の環境がほしく計画したいと思っています。「元気な子ども元気な大人を育む森」のコンセプトを全ての施設建設から運営まで無償ボランティアですが、次のステップに向かう目玉の一つとして水辺の環境作りを何とかしたいと思っています。規模の大きさはとても大変ですが、大いに参考にさせていただきたいと思っています。有難うございました。

事務局長 村田真博

※記載が遅れました申し訳ありませんでした。何とか連絡を採って「ご協力が出来ればなあ」と思います。

- 1月17日（木）数年前来た時以来ですが、あの時よりすっかり良くせいびされており、ビックリしました。時折新聞等で活動を拝見しておりますが頑張って、子ども達が楽しめる里山になるといいですね。ゆっくり回って楽しめました。 12:30（くもり） K,Tひとり

※ 元会員で掲示用パネル等の製作に協力いただいた方で6年まえ仕事の都合で大阪に転任され現在宇部在住です。

5. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

ナズナとハコベ

七草粥でおなじみの春の七草のうち、今回はナズナとハコベを紹介します。

ナズナはぺんぺん草といったほうが通りのよいアブラナ科の植物です。大根の葉のような根生葉が地面に張り付き、この寒中に早くも花茎を伸ばして白い小さい十字型の花を次々に咲かせています。下から花を咲かせるので、下の方にはぺんぺん草の名前の由来である、逆三角形の軍配のような、三味線のばち状の実になっているのが見られます。

漢名では「薺」と書き、中国では古くから薬食として珍重され、利尿・解熱・止血作用があるとされています。日本でも古くから食用にし、室町時代から七草がゆに入れるようになったそうです。里山自然観察隊の4月の野草天ぷらには常連として毎回入れています。4月では時期が遅いためかやや筋っぽく、春早くに食べる方が良いでしょう。

ハコベは古名がハコベラで、正式には茎が紫色っぽいコハコベと緑色のミドリハコベがありますが、ひっくるめてハコベと呼んでいます。別名はひよこ草といますが、英名も全く同じく、チックウィード（chickweed）＝ヒヨコ草です。ハコベ属の学名は「ステラリア」といいますが、これは星を意味するラテン語「stella」から来ています。このいかにも星を連想させる花卉、10枚あるように見えて、実は5枚です。花びら一枚の形がV字型をしているため、倍の10枚に見えるわけです。中国では繁縷（ハンロウ）と呼ばれる薬草で、欧米ではハーブティーとしてチックウィードはよく知られています。近年はダイエット・ハーブとしても用いられているようです。また、日本の民間療法として「はこべ塩」というのがあります。歯茎が腫れて痛むときに、乾燥・粉末化したも

のを塩と混ぜて磨くと効果があるそうです。

ナズナもハコベも越年草で、秋の終わりに発芽し、春に大きくなって花を咲かせるという生活史をもっています。このムギと同じような生活スタイルをもち、人里近くにしか生えていないことから、これらの植物は日本にムギが入ってきたのはるか昔に、外国から移入してきた「史前帰化植物」ではないかと考えられています。本来は麦畑の雑草であったものが逃げ出して、いろいろな環境に広がったとみられます。食用や薬用、あるいは動物のえさとして世界中で用いられているのも、昔から人とともに共存してきたなじみの深さを物語るものです。



ナズナ (アブラナ科)



ハコベ (ナデシコ科)

6. 会員の声

今回もありません。

7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

ビオトープが猪によって被害甚大です。今年は4月まで修復活動が主な活動となると思われます。今まで以上に参加を望みますが、参加された方は毎回お昼を若干過ぎる事も考えられますのでそのつもりで宜しくお願いいたします。

8. 編集後記

会報2号の編集後記で、私は宇部市の市木であるクスノキを取上げて、虫も寄り付かず手が掛からない木をなぜと書いたが、それから約6年経ち、いろいろと情報を入手してみると、なぜこの木が重要なものであるかということを知った。鎮守の森と言われる神社には、何十年や何百年も経っているクスノキに出会う。市内にある公園にもクスノキは多く植えられている。阪神大震災の時に、多くの家屋が延焼したが、公園のクスノキが延焼を食い止めたということ。第二次世界大戦の終戦時に、日本の多くの場所が焼夷弾などの被害を受けており、名古屋市の熱田神宮では、隣の三菱重工業に多くの爆弾が落とされて延焼したが、神宮の多くのクスノキは上部の枝などは燃えたが、根元の幹が残って約50年の歳月で、元の神宮の森に再生したそうです。少しの情報を齧り取り、それでもって論じることが非常に恥じることでであると悟ったものです。これからまだまだ勉強していかなければいけないと感じつつ、ビオトープのエコアップに努めようと思います。

(西原 一誠 記)